

ふくい木育基本方針

令和7年11月25日策定

1. 策定の趣旨

現代社会において、私たちが日常生活の中で木や森林に接する機会が少なくなっています。かつては、生活の糧を森林から得ていた人々の暮らしも、近年の社会経済情勢の変化や都市化の進展などにより利便性が向上したことから、自然由来の手仕事のものから石油由来の工業製品等にとって代われ、暮らしを取り巻く環境が大きく変化しています。

昔ながらの手間ひまかけた木を活用した「モノづくり」や、人と人が関わり合うことによる「遊び」や「学び」の大切さ、豊かな自然に囲まれた景観への配慮など、人間社会の形成に大切な感性や社会性を育む場や機会、価値観が失われつつあります。

また、森林は、多種多様な生物と出会える自然環境の学習の場であるだけでなく、様々な森林の役割を実感することができる場でもあり、人と自然が共生する社会を実現するためには、森林との関係が希薄化しがちである都市住民、とりわけ将来を担う子どもたちの森林体験が重要です。

さらに、森林が果たす役割は、地球温暖化防止や水源涵養、土砂流出防備など、私たちの生活に欠かせないものでありながら、その公益的機能に対する知識や「伐って、使って、植えて、育てる」といった次世代に引き継いでいくための森林づくりのサイクルについての正しい理解が充分ではないため、人々に対する普及啓発が求められています。

そこで、私たちが将来にわたり持続可能な生活を送るうえで、『木』の持つ魅力や『森林』が環境的、社会的、経済的、文化的に重要な役割を担っていることへの理解や関心を深めてもらうため、

“ 木とふれあい、森から学ぶ “

～これからも人が森と生きるために～

を基本理念とし、今後の目指すべき方向性を示すために基本方針を策定します。



作：平田 美紗子

出展：林野庁図書資料館HP

2. 定義

(1) 本市におけるふくい木育の定義

本来、『木育』とは、市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ、木材利用に関する教育活動として位置づけられています。(平成18年9月8日に閣議決定された「森林・林業基本計画」より)

また、『森林環境教育』とは、森林内での様々な体験活動等を通じて、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深めることにより、森林と人とが共生する社会の実現に向けた取組みを推進することと定義付けされています。(平成11年2月18日中央森林審議会答申より)

今回、本市では、上述の『木育』と『森林環境教育』の考えを融合させ、様々な取組みをまとめ『ふくい木育基本方針』とします。

本市のふくい木育では、木に対する親しみや木の文化への理解、人々の生活や環境と森林の関係についての関心を深める取組みを推進します。

具体的には、子どもから大人までを対象に、地元産の木材や木製品との触れ合いを通じて木材の良さや利用の意義を学ぶ活動と、森林体験等を通じて森林の働きが私たちの生活とどのような関わりがあるのか、広い視点で学ぶ活動と、社会において森林のために行動する活動を行います。

3. 目指す方向性

(1) 目指す姿

本市のふくい木育とは、子どもをはじめとするすべての人が『木とふれあい、森から学ぶ』取組みです。それは、子どもの頃から木を身近に使い、森に親しみ、木や森からの学びを通じて、本市の森林に誇りと愛着を持ち、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことであり、森に携わる人を育むことです。

ふくい木育の基本的な考えに基づいた様々な取組みの実践により、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育み、すべての人が思いやりとやさしさを持ち、地球という大きな『つながり』のなかで自然と共存し、100年後の福井市民に豊かな森林の恵みが享受されるよう、人間らしく生きることができる社会の実現を目指します。

豊かな心が醸成できる『人』づくり

木に触れることは、木の持つ温かさを肌で感じることができ、その素晴らしさを五感で学ぶとともに、身近な人々と一緒に森や木で遊んだり、森づくりモノづくりをしたりする体験を通して、楽しさや喜びを共感し合うことができます。また、森林浴や森林セラピーという言葉があるとおり、森に入ると心身がリラックスしたり、疲労が軽減されたりと、人の身体にとってよい効能が得られることがあります。そうした体験が、森や木に対する関心につながります。また、木に触れ合い、「手でつくり、手で使い、手で考える」という経験を通して、人や心の成長を促すことができます。

このことから、人や自然に対する思いやりとやさしさを育むことと併せ、心を豊かにすることにつながる取組みを実施します。

森に携わる『人』づくり

身近な人と一緒に森で遊び、森に学び、木でモノをともにつくる体験を通じて、私たちはその背景にある森や木に興味を持ち、それが森づくりモノづくりの関心へとつながります。また、木

を活用したモノづくりや森づくりは、森林の維持管理につながるだけでなく、ひいては、地域の防災力を高める一助や、暮らしを支える経済活動の一翼を担う可能性も秘めています。また、森の大切さや木を活かすことの大切さを理解し、行動することも大切です。

このことから、森づくりや木を活用したモノづくりを行う人に加えて、森林保全活動を主宰する人など森や木について行動を起こすことができる人の育成につながる取組みを実施します。

人と自然が共存する『社会』づくり

人の心を豊かにし、モノづくりを体験できる大事な場所である森林、水源涵養や国土保全のほか、二酸化炭素を吸収する地球温暖化防止機能など公益的な機能をもつ森林、このような私たちにとって大切な森林を次代に引き継いでいく必要があります。

森の恵みがわかり、木で作られたものが人々の生活の中に溶け込み、地域の森林が生き活きとしている、人と自然が共存できる社会を構築していく必要があります。

子どもから大人まですべての人々が思いやりとやさしさを持ち、地球という大きなつながりの中で自然と共存し、人間らしく生きることができる社会の実現につながる取組みを実施します。

(2) ESD (持続可能な開発のための教育) との関連性

平成25年11月にESDに関するグローバル・アクション・プログラムが、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)総会で採択され、国内でもESDの取組みが進められています。

ESDとは、「人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動」のことです。(「ESD国内実施計画」H28より抜粋)

本市のふくい木育による体験活動等をとおして、将来の社会の創り手となる子どもたちが、豊かな創造性を持ち、持続可能な社会を実現していくための新たな価値観や問題解決等につながる資質や能力を育むことができるよう活動を実施していくことは、このESDの趣旨に合致していると考えます。



(3) SDGsとの関連性

平成27年9月に開催された国連サミットにおいて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、17の目標(ゴール)と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が定められ、先進国を含む国際社会全体が令和12年までに貧困や飢餓、気候変動など、広範囲な課題に統合的に取り組むことにより、持続可能な社会の実現を目指すこととしています。

これを受け、国は、政府や地方自治体、企業等の役割を示す「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」を定め、令和元年12月には、「SDGsアクションプラン2020」を決定しました。この中の森林・林業・木材産業関係では、林業の成長産業化と森林の多面的機能の発揮のための施策や、強靱な国土の整備のための治山対策などの取組みを進めることとしています。

本市では、幅広い年代の市民に対するふくい木育による森林空間を活用した体験・学習活動等を進めることにより、生活の質の向上や森林の多面的機能の発揮を通じた環境への貢献等が理解され、SDGsにつながると考えます。



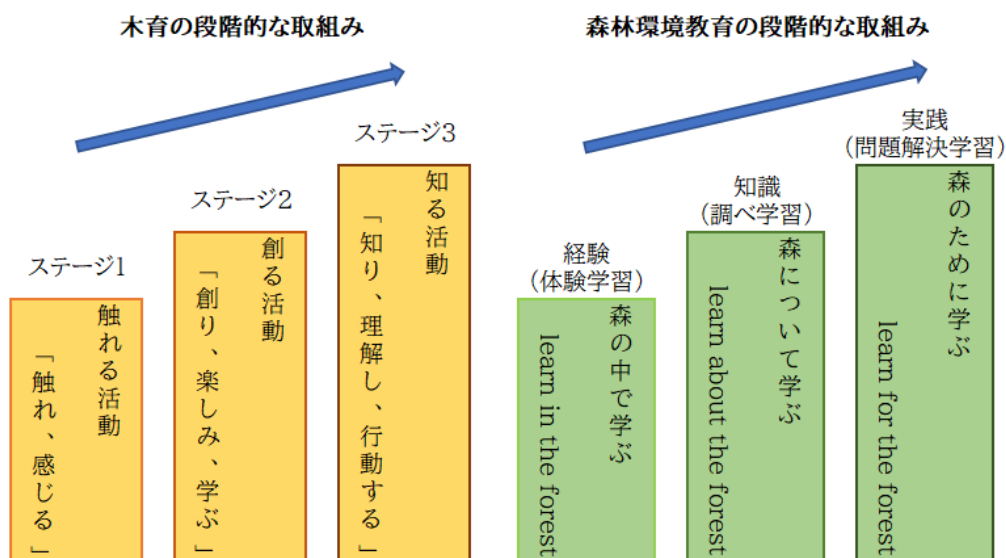
4. ふくい木育の進め方

(1) 段階的な取組みの背景

「ふくい木育」は、幼児から高齢者までを対象とした、生涯にわたる幅広い活動です。木や森についての様々な体験は、単に木や森についての理解を深めるだけでなく、鋭い感性や自然への親しみ、森林や環境問題に対する確かな理解の基礎を育むものです。

多様で自由度の高い「ふくい木育」を展開する上で、誰を対象とするか、どんな活動を展開するか、ねらいを十分に検討し、明らかにする必要があります。

対象者の発達段階や経験に応じた、「触れる」「創る」「知る」の段階的な3つの取組みの役割を理解し、意識することに加えて、「森の中で学ぶ」「森について学ぶ」「森のために学ぶ」を組み合わせることで、木への体験活動が中心の「木育」から森の役割を理解し、実践を行う「森林環境教育」を含む本市の「ふくい木育」となります。



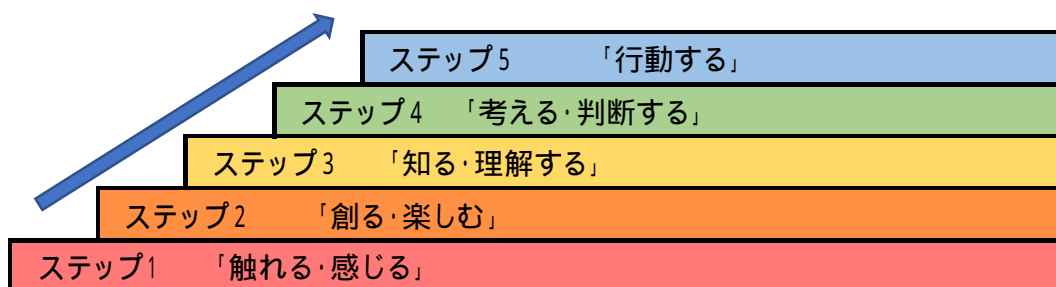
(2) 本市の5つのステップ

木育の段階的な取組み「触れる」「創る」「知る」の3つのステージと、森林環境教育の段階的な取組み「経験」「知識」「実践」の3つのステージは、基本的な流れや方向性を示すものであり、それぞれのステップが複合的に混ざり合うと考えます。

そこで、本市の「ふくい木育」では、目指す姿に向け段階的に5つのステップに分け、子どもから大人までの幅広い対象者に段階に応じた活動を行います。

例えば、「森林に携わる人を増やしたい」というような「行動する」の段階を望む前に「触れる・感じる」段階から始めると、その人の中に体験が残るものとなり、「知る・理解する」「考える・判断する」の段階を経て「行動する」につながりやすくなります。

「ふくい木育」を進めるにあたっては、対象者の年齢や知識、これまでの経験、さらに森や木に対する認識・理解度にあわせて(例えば、幼児用、小中学生用、成人用等)対応することが大切です。



(3)各ステップのねらいと内容

ステップ1「触れる・感じる」

ステップ1のねらい

木で遊ぶ、森の中で遊ぶといった自らが経験すること。

木材や森林の良さを、五感を通して体感すること。

木や身近な自然と触れ合う中で様々なものに興味や関心をもつこと。

まずは、与えられる知識ではなく、原体験が重要であり、「ふくい木育」で最も基本となることは、木や森林に親しみを持ってもらうことです。木や森林の良さを知り、親しむ経験が、木を正しく利用し、森林を守ろうとする気持ちのもとになるからです。この体験の有無が、その後のステップにおいて、その効果を高める非常に重要な要素となってきます。

(具体的な活動内容)

- 身近な森の中で遊び、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- 樹木に触れ、色・音・匂いなどを体感する。
- 身近な森の中や、公園の木々の下で、聞こえてくる音に耳を傾け、自然を感じる。
- 公園の落ち葉で遊び、季節により自然の変化があることに気付く。
- 木のおもちゃで遊び、やわらかな感触、独特な匂いを感じる。
- 木で作られたものに触れ、興味を持ち、考えたり試したりして工夫して遊ぶ。
- 木造建築物を見るあるいは触り、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。



ステップ2 「創る・楽しむ」

ステップ2のねらい

手や身体を使った創造的な活動により、手先の器用さや豊かな感性を高めること。
材料の特徴を実感し、自ら考え、創造的な思考で問題を解決する力を養うこと。
自分の作ったものに愛着を持てるように、楽しく、役に立つものを作る、創る過程を楽しむ、また完成の喜びを味わわせること。

幼児期から大人にいたるまで、木材を使った創る活動は人間の知的能力、身体的能力の発達に優れた効果を発揮するといわれています。構想から設計、製作・評価にいたる「ものづくり」の過程において、材料としての特徴を実感し、自ら考えつつ様々な課題を解決することは、創造的な思考で問題を解決できる人間を育てることにつながります。

自然の中で、自ら考え、材料を集め、仲間と共同して、ひとつのものをやり遂げる作業は、その使い方を考える思考力を養うとともに達成感を得られます。その行動ひとつひとつに、楽しみを見いだすこともあります。

「創る・楽しむ」活動をとおして、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操や創造力、問題解決力を養うことが次のステップにつながります。

(具体的な活動内容)

- 板材や角材等の木片をつかって、ものを作る。
- 葉っぱ、木の実など森由来のもので創作する。
- 森の中で、その場にあるもので基地づくりや探検ごっこをする。
- 基本的な木工道具（かなづち、のこぎり、簡単な小刀など）を使って、木片で好きなものを作る。
- 木工品や家具などDIYによるものづくりを行う。
- 板材や角材など素材から加工するものづくりを行う。



ステップ3 「知る・理解する」

ステップ3のねらい

- 森林や木について自ら調べ、自分自身で理解し、自分の知識とすること。
- 身近な森や樹木の現状を調べ、森と人との関わり方を理解すること。
- 人々の生活の中で、森林が果たす役割を学び、森林の働きを理解すること。
- 木製品を製作していく中で、材料としての木に興味を持ち、特性を理解すること。

木に親しみ、その特徴を理解した人は、木を使ったり、木製品を生活に取り入れたりすることに積極的になると思われます。しかし、木材の利用や森林の伐採は、環境に対する負のイメージが付きまとい誤った認識を持っている人が少なくありません。里山林についても、森と人との関わりから成り立っていた森林であり、人手が入らなくなると、植生などがかわり里山林と呼べなくなってしまいます。

これまでの森と人との関わりを理解することで、適正に管理された森林から伐採された木材を使うという行動が、森林の持続的管理や環境の改善に大きく貢献することを学ぶ必要があります。知らなければわからないことでも、自分で調べ、自分の知識とすることで、木材の利用と森林・環境の関係を理解し、環境に配慮した行動のための判断力を養うことができます。

「知る・理解する」活動をとおして、森林や木材と環境、文化、くらしの関係について、科学的な知見や確かな情報をわかりやすい形で提供することにより、木材の利用と社会や環境における森林との関係を学ぶことができ、次のステップにつながります。

(具体的な活動内容)

- 森林の成り立ちから森林の働きまでを理解する。
- 森や木について、自分で調べる。
- 身近な様々な樹種を加工し創る体験をとおして、その特性や適材適所を理解する。
- 校庭の樹木や身近な森林、関係する昆虫等の観察をしながら、講師の話を聞く。
- 季節や場所ごとの森や樹木の様子を観察し、拾った葉や実を図鑑で調べ標本を作る。
- 木材の利用と森林・環境の関係を理解する。
- 人手が入っている里山林と放置された里山林を実際に体感し、森と人との関わりを調べる。
- 地域の年配者から昔の森林の話をお聴くことで、森と人との関わり方を理解する。
- 人工林の歴史について調べた後、実際に人工林や里山林の下刈り等の体験から、作業前後の環境の変化を体感する。
- 森林・林業・木材に関する講演を聞く。
- 校庭の土と森林の土を用意し、水の浸透能力や水質浄化能力などを実験や観察により調べる。
- 製材工場等を見学し、樹が木になる過程を見学するとともに、集成材や合板など、木材の様々な使われ方について話を聞く。
- 断熱性、吸湿性、衝撃吸収力などを様々な素材で比較し、木材の特性を理解する。

ステップ4 「考える・判断する」

ステップ4のねらい

木材の利用と環境の関係を理解し、環境に配慮した行動のための判断力を養うこと。

森林育成活動等への参画に積極的な姿勢を育むこと。

木材製品を選択・利用できる、賢い消費者としての資質を高めること。

森林整備の体験から林業や山村の置かれている状況やその重要性を考えること。

間伐材を活用したものづくりやその利用などの体験を通して、木材の活用と消費活動を結び付け、地産地消や持続可能な社会について考えること。

「触れる・感じる」体験活動や「創る・楽しむ」体験活動、さらに「知る・理解する」活動を経て、木材や森林が、実生活とどのようにつながっているのか、どのように役立っているかを考え、認識していくことが、森林を含む自然環境の保全、ひいては持続可能な社会の構築につながります。

自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り組むことにより、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成することで、森林・木材の利用や環境の関係を理解し、環境に配慮した行動をするための判断力を養うことができます。また、学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決に主体的、協同的に取り組む態度を育て自己の生き方を考えることができます。

「考える・判断する」活動をとおして、木材の利用と環境の関係を理解し、環境に配慮した行動をするための判断力を養い、持続可能な社会の構築に向けた賢い判断ができる人を育みます。

(具体的な活動内容)

- 森林体験活動・林業体験活動に参加する。
- 木を使うことの意義を理解し、身のまわりにあるものを木製品に換える。
- 山村エリアと交流するなかで自然や文化に親しみ、地域の農林業従事者に仕事や暮らしについて話を聞く。
- 身近な里山林の手入れを体験し、自分たちでシイタケや炭など林産物の生産を行う。
- 地域の森林の課題を調査し、それに対する解決策を議論し、意見をまとめて発表する。
- 家づくりの現場や木製品の製作工場を見学し、木材の活用事例を知る。
- 自ら設計し、道具や材料を選択して、木製品を製作する。作品を互いに評価しあう。

ステップ5 「行動する」

ステップ5のねらい

- 自らの意思で考え、行動し実践すること。
- 森林ボランティア活動等に積極的に参画すること。
- 環境に配慮した賢い消費行動をとることができること。
- 森林・環境の改善に向けて、積極的に行動すること。
- 森林の必要性に対する社会的な理解を促進すること。
- 社会全体で森林の整備・保全を進める機運を醸成すること。
- 子どもたちの「生きる力」を育み、次世代につなぐこと。

各ステップの活動の中でも、行動する活動の要素はあるものの、主体的な活動ではなく、自らの意志で考え、行動を起こすことが求められます。

木や森林から得られる体験や実感から、それらを知り、理解し、学び、判断するといった過程を経て、問題の本質や取組みの方法を自ら考え、解決する能力を身につけ、自ら進んで問題に取り組むことで、森林を含む自然環境の保全、ひいては持続可能な社会への構築につながります。

さらに、次世代につなぐことを目的に、培った体験や知識を発信し、人材を育てていくことを目標として、活動していくことが求められます。

「行動する」活動をとおして、自ら考え、主体的に取り組むことにより、次世代を担う豊かな心を持った人材の育成、森林を含めた自然環境の保全、さらには持続可能な社会の構築に取り組む人を育みます。

(具体的な活動内容)

- 木製品の購入や住宅を建てる際に、木材活用と消費活動を結びつけ行動する。
- 子どものために木のおもちゃを購入し、木のぬくもりを幼児期から体感させる。
- 森林ボランティア活動等に参加又は運営し、森林環境の保全に携わる。
- 森林や木について、専門的な知識を取得し、それを広める活動を行う。
- 地域の学童保育の子どもたちに対して、木育プログラムを実践する。
- 森や木に関する職業を選び、実践する。

《参考》ステップごとのねらいと活動例

発達の段階	ステップ1 「触れる・感じる」	ステップ2 「創る・楽しむ」	ステップ3 「知る・理解する」	ステップ4 「考える・判断する」	ステップ5 「行動する」
幼児	ねらい 1) 木材の良さを、五感を通して体感する 2) 森や樹木に好奇心を持つ	1) 木材、枝、葉などを使って、楽しく創作活動ができる 2) 基本的な道具を使い、木材の感触を楽しむ	1) 木が身の回りでたくさん使われていることを知る 2) 木と森とのつながりを知る		
	活動内容 木でできたおもちゃを使う、遊ぶ 森や樹木で遊ぶ 木玉のプール遊び	森の恵みを使ったおもちゃづくり 丸太の輪切り体験 かなな削り体験	物語を読む 紙芝居を見る 苗木を育てる		
小中学生	ねらい 3) 様々な種類の木材に触れ、その質感の違いを知る 4) 木材と他材料を比較し、その違いがわかる 5) いろいろな種類の樹木に触れる 6) 森の樹木、生き物に触れ、森林に対する関心を高める 7) 日本の木工職人や伝統技術に対する関心を持つ 8) 身近な森林での活動を通して、森の豊かさを感じる	3) できあがった作品に愛着を持ち、身近な人に説明できる 4) 木材の特徴と個性を活かして、作品をまとめ鑑賞する 5) 創る活動により、手先の器用さや段取りの力を高める 6) 木材の特徴や道具の特性を理解し、創る活動を進められる	3) 木材の様々な性質を体験的に理解する 4) 木材がその性質を活かして使われていることを知る 5) 人間の生活と木材や森林の関りについて知る 6) 森林に公益的機能があることを知り、はたらきを理解する 7) 人工林と天然林の違いがあることがわかる 8) 森林資源の現状を知り、保全活動や林業の役割を理解する	1) 木材の基本的な性質について、簡単な実験によって理解できる 2) 森林から得られる恩恵について、体験を通して考える 3) 行動選択が森林保全につながるか判断する	
	活動内容 木材の音あそび 広葉樹材と針葉樹材の比較 木材と木材以外との比較 地域内の巨木見学のこや山菜の採集 木登り体験 木工職人による実演、実技指導 木の文化財見学の里山でのレクリエーション活動	組み立てを中心とした簡単な作品づくり 切断した丸太を使った作品づくり 木に関する昔あそび体験 手工具を使った身近な製品づくり 十分に加工された材料を使ったものづくり 森の基地づくり ビオトープづくり	身の回りの木材製品を探す 木材と森に関するクイズ 木材のおもしろ実験 森林体験 学校林での活動 森林学習施設の見学 自分で設計から製作まで行うものづくり	木材細胞の観察や簡単な強度実験 林業体験（職場体験活動） 森林ボランティア活動への参加	
高校生	ねらい 9) 様々な木材利用技術に触れ、環境改善に向けた可能性を知る 10) 木材及び森林と日本の風土、文化、伝統との関りが理解できる	7) 創る活動を通して、問題解決や創造力を高める 8) 自ら安全管理を行い、木材の特徴を活かした創作ができる	9) 木材の性質を科学的根拠に基づいて理解できる 10) 森林の持続的管理が環境保全につながることを理解する	4) 確かなデータに基づいて、森林と木材利用の関りを知る 5) 消費者としての資質を高める	1) 自ら考え実践する
	活動内容 木材加工施設の見学 地域の木材関連研究施設の見学 木材と森林の歴史に関わる講演	地域や様々な施設のための製作 グループによるデザイン活動 木工機械や合板などの木質材料を活用したものづくり	割り箸などを使ったブリッジコンテスト 森林や林業に関する文献を読む 森に携わる人からの聞き取り	森林や樹木の二酸化炭素吸収量や蓄積量の計測実験 森林や木材利用に関わる調べ学習 製品製造の背景を調べる	森林ボランティア活動等を企画し、地域社会とのつながりを持つ 森林や木に関する職業を選択し、仕事とする
成人・一般	ねらい 11) 木材製品を生活に取り入れ、楽しみ、味わうことができる 12) 実際に体験し、他者に伝える事ができる	9) 木材を活かした自分らしい生活をデザインすることができる	11) 森林や木材の文化、芸術作品、伝統技術等に関心を持ち、その価値を理解できる	6) 木材利用と森林あるいは環境との関りについて理解し、適切な評価が下せる 7) 生活環境の豊かさを実現するために、木材を活用することができる	2) 環境に配慮した賢い消費行動をとることができる 3) 森林・環境の改善に向けて、積極的に行動する 4) ルールを守り、充実した余暇活動を森林で行うことができる
	活動内容 工芸品の生産地や木の文化財、芸術作品巡り 住まいづくりのための森林見学ツアー ネイチャーゲームや森林散策など	木材を使ったDIYやリフォーム活動 木材を使った美術、工芸の活動	木構造など伝統技術に関する講演 里山フォーラムなど森林や林業に関する講演	カーボンオフセットや「見える化」に関する勉強会 家族や子どものためのものづくり	木材利用と環境問題に関する講演 間伐体験への参加や里山の整備活動 次代につながる人材育成をする

(4) 各世代や活動場所による取組み

本市の「ふくい木育」の活動は、その基本的な考え方から、生活のあらゆる場面を想定し、取り組むことができることから、「子どもから大人までのあらゆる年齢層を対象」としています。

幼児が他者との関わりを経験していく保育園や幼稚園等から集団生活や学習の場である学校では遊びや学びに関する取組み、家庭では衣食住をともにする人との取組み、地域や職場では幅広い年代の多様な人との取組みを実施することにより、基本方針の目指す「人づくり」「社会づくり」につながります。

《参考》各世代や活動場所による様々な取組みの例

	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生・成人
保育園 幼稚園 学校		<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間で森林の役割について学ぶ 広葉樹と針葉樹の違いを学ぶ 工作の時間で簡単な木製品を作る 地元産材の机や椅子を使う 	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について学ぶ 広葉樹と針葉樹の違いを学ぶ 技術・家庭科で設計から木製品を作る 地元産材の机や椅子を使う 	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について学ぶ 自然科学の計測実習 	<ul style="list-style-type: none"> 森林や木材について研究する
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 木のおもちゃで遊ぶ 森や樹木で遊ぶ 木材にふれる 木の実や枝などを使ったおもちゃ作り 	<ul style="list-style-type: none"> 木登り体験 里山や森林公園で探検 原木しいたけ作りなど栽培 身の周りの木製品探し 森や木に関する話を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 里山でのレクリエーション活動 地域内の木造建築物の見学 森林ボランティアへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> 森林や木材に関する講演を聞く 林業関係施設の見学 地域や様々な施設のための製作 	<ul style="list-style-type: none"> 地元産木材の住宅に住む 家族で森林公園に出かけ、森林散策や森林浴を楽しむ 博物館や自然学習施設に出かけ、森林の役割や成り立ち、木材を使うことの意義を学ぶ
地域					<ul style="list-style-type: none"> 講演会に参加し地域の文化や伝統を学ぶ 地域に伝わる林業や木工などの伝統技術を次世代に引き継ぐ 公民館やバス待合所など、地域で使う物や場所を木製にする
職場			<ul style="list-style-type: none"> 森林や木材に関する職業体験 	<ul style="list-style-type: none"> 森林や木材に関する職業体験 インターンシップ 職業選択に向けての情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員研修や会社の社会貢献活動などにおいて森林ボランティアや自然環境教育を実施 会社のCSR活動の一環で、スギの間伐を実施 地元産木材を使った内装の木質化や建物の木造化

(5) 基本方針の推進

本基本方針を推進していくために、本市における具体的な取組みについては『ふくい木育行動計画』に基づき、実施します。また、その中で取組みの成果について検証するとともに、今後の取組方針や推進に向けた数値目標の検討等を行います。